

芥川 龍之介

鎌倉 一月二十八日夜

一昨日、小説原稿がとどきました。難有う  
存じました。女房ひとく悦んでおられます。  
今日は日曜日のことで、且は昨日の東京新聞が  
あったが、岸克己、門田木原、横山フケちゃん  
と遠かに集って、こたつを囲んで午後中を雑  
談して暮しました。

あなたも今度東京へいらつしやう頃には

社の附近も大分変わっております。昔なつ  
かし銀座の柳といふ文句はこれまゝ變に  
馬鹿にしておましたが、これからは別の意味の  
実感を持つことになつます。鎌倉の仲間皆  
元気で鎌倉を讚美しております。此ころか  
東京の人たちに悪いくらゐに  
土橋君はもう来てゐるやうですが、また會  
つておません。こちら数日寒しい日が続き、  
氷と氷の如く、駅へ汽車の切符を買いに夜半に  
なつてゐる中から凍死者を出したやうです。

一月二十九日 投